

# ハンブルク・バレエ団

## ガラ公演〈ジョン・ノイマイヤーの世界〉

### 待望の演目&キャスト決定!!

3月8日(火)  
3月9日(水)  
東京文化会館

今回のハンブルク・バレエ団日本公演のなかでも、特別に構成されたガラ公演(ジョン・ノイマイヤーの世界)。本公演は芸術監督のノイマイヤーが自身の人生と芸術を語りながら舞台が進行していきます。いま最も注目すべき振付家の軌跡であり、一晩で名作の抜粋を一挙に見られる大変贅沢な公演です。



[アイ・ガット・リズム]



[マーラー交響曲第3番]

#### 『キャンディード序曲』(『バーンスタイン・ダンス』より)

レスリー・ヘイルマン、有井舞耀、コンスタンティン・ツェリコフ、菅井円加、カレン・アザチャン、ほかハンブルク・バレエ団

#### 『アイ・ガット・リズム』(『シャル・ウィ・ダンス?』より)

シルヴィア・アッツォーニ、アレクサンドル・リアブコ、ほかハンブルク・バレエ団

#### 『くるみ割り人形』抜粋

エミリー・マゾン(8日)/フロレンシア・シネラト(9日)、ロイド・リギンズ、エレヌ・ブシェ(8日)/アンナ・ラウデール(9日)、アレクサンドル・トルーシュ

#### 『ヴェニスに死す』抜粋

ロイド・リギンズ、カロリーナ・アグエロ、カレン・アザチャン

#### 『ペール・ギュント』抜粋

アリーナ・コジョカル、カーステン・ユング

#### 『マタイ受難曲』抜粋

ダリオ・フランコーニ、ほかハンブルク・バレエ団

\*表記の演目とキャストは2016年2月10日現在の予定です。カンパニーの事情により変更になる場合があります。



[ペール・ギュント]

#### 『クリスマス・オラトリオ I - VI』抜粋

バトリシア・フリザ、レスリー・ヘイルマン、クリストファー・エヴァンス、菅井円加、レナート・ラデック、ほかハンブルク・バレエ団

#### 『ニジンスキー』抜粋

アレクサンドル・リアブコ、エレヌ・ブシェ、アレイズ・マルティネス、バトリシア・フリザ、ほかハンブルク・バレエ団

#### 『ハムレット』抜粋

アンナ・ラウデール、エドウィン・レヴァツォフ

#### 『椿姫』第2幕のパ・ド・ドゥ

アリーナ・コジョカル、アレクサンドル・トルーシュ

#### 『作品100—モーリスのために』

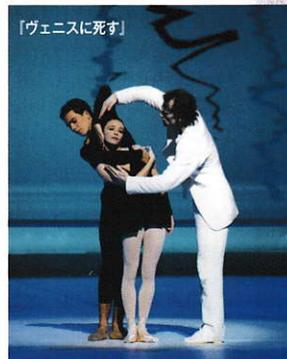
アレクサンドル・リアブコ、イヴァン・ウルヴァン

#### 『マーラー交響曲第3番』抜粋

シルヴィア・アッツォーニ、カーステン・ユング、ほかハンブルク・バレエ団



[椿姫]



[ヴェニスに死す]



[アイ・ガット・リズム]

Photos:Holger Badekow

ハンブルク・バレエ団  
2016年日本公演

#### 『リリオム〜回転木馬』

3月4日(金) 6:30p.m.  
3月5日(土) 2:00p.m.  
3月6日(日) 2:00p.m.  
東京文化会館

#### ガラ公演〈ジョン・ノイマイヤーの世界〉

3月8日(火) 6:30p.m.  
3月9日(水) 6:30p.m.  
東京文化会館

#### 『真夏の夜の夢』

3月11日(金) 6:30p.m.  
3月12日(土) 2:00p.m.  
3月13日(日) 2:00p.m.  
東京文化会館

■入場料(税込) S=¥23,000 A=¥20,000 B=¥17,000 C=¥14,000 D=¥11,000 E=¥8,000 エコノミー券=¥6,000 学生券=¥4,000

◆ペア割引あり[S,A,B席] ◆親子ペア割引あり[S,A,B席]

お問い合わせ NBS チケットセンター  
お申込み (平日10:00~18:00、土曜10:00~13:00)

TEL03-3791-8888

NBSのホームページ <http://www.nbs.or.jp/>

For information in English, see <http://www.nbs.or.jp/english/>

特別協賛:公益財団法人 稲盛財団 主催: NBS 公益財団法人日本舞台芸術振興会/日本経済新聞社/テレビ東京 後援:ドイツ連邦共和国大使館

ハンブルク・バレエ団日本公演にあたり、  
ライターの実川絢子さんによる現地特別取材、  
ダンサーのインタビューをNBSのホームページでご紹介しています。  
作品を見つめるダンサーの興味深い言葉を、ぜひ、全文でご覧ください。



### 「真夏の夜の夢」のヒロインを踊る

エレヌ・ブシェ

**悩めるヒッポリータ、強く官能的なタイターニア。二人の女王を演じる。**

「この役は、二つの顔を持った一人の女性として演じています。ヒッポリータは、シーシアスと結婚することに確信を持たず、結婚式の準備が着々と進んでいくなかで、その重圧に耐え切れず悩んでいます。一方、彼女の別の一面である妖精の女王タイタ

ーニアは、とても強い女性で、夫オベロンに一步も引かず常に喧嘩状態。そんなまったく異なる二つの顔を、短時間で演じ分けるのはとても興味深いですね」

全文は  
こちらから



### 「リリオム」のタイトルロールを踊る個性派

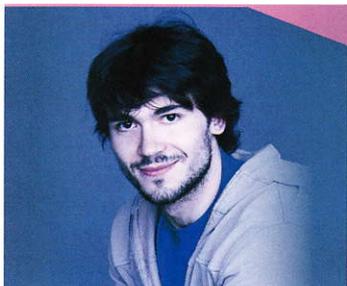
カーステン・ユング

**荒くれ男の心にひそむ優しさを表現**

「原作ではジュリー親子の会話に、「殴られても少しも痛くないということがあるの?」「ええ、確かにあるわ」というくだりがありますが、リリオムには荒っぽい部分だけではなくて、自分や愛する人を傷

つけないようにしようとする優しさがあります。その微妙な境界を、わざとらしくなく、あくまで自然に表現してきたつもりです」

全文は  
こちらから



### 若手プリンシパルの筆頭ダンサー

アレクサンドル・トルーシュ

**少年の面影とともに踊り分けるバック／フィロストレートの一人二役**

日本公演で踊るのは、『真夏の夜の夢』の狂言回しの存在である、バック／フィロストレートの一人二役。やんちゃな少年の面影を残すいたずらっぽい眼差しが、遊び心あふれる妖精バックのキャラクターにぴったりだ。「バックとフィロストレートの二人はまったく異なるキャラクターではありますが、同時に別の側面を持った一人の人間でもあるので、バランスに気を

つながら微妙なところを演じ分けています。幕開きに登場するフィロストレートは婚礼の準備を仕切っていて、シーシアスのお屋敷も本当は自分が牛耳っているんだと思いこんでいるところがあり、性格も頑固で厳しい。一方バックは、ふざけるのが好きで、間違いもたくさん犯してしまう。僕自身のキャラクターはたぶん、その両方の要素が混ざっているかなと思います」

全文は  
こちらから



### 世界バレエフェスティバルにも出演した注目のダンサー

エドウィン・レヴァツォフ

**美青年に託された風刺的キャラクター“天国の判事”**

『ヴェニスに死す』の美少年タジヨ役、最近では『タチャーナ』でのオネーギン役など主要な役を振付けられ、注目を集めてきたエドウィン・レヴァツォフ。『リリオム』ではまったく毛色の異なる“天国の判事”役を踊る予定だ。「この役は僕のために振付けられた役になりますが、僕にとって初めての、漫

画に登場するような極端なキャラクターでした。単純にコミカルな役、シリアスな役といった枠に収まりきれない、風刺的なキャラクター、というのでしょうか、それまで踊ってきた役とはまったく違ったので、創作過程はとても興味深い、新鮮な経験でした」

全文は  
こちらから



### 家族と動物を愛する自然体な魅力にあふれたプリンシパル

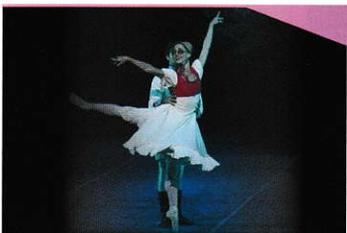
アンナ・ラウデール

**自分自身が感じていることを信じるのが何より重要**

日本公演の『真夏の夜の夢』では、長年踊ってきたハーミア役を踊る。「これまではずっと、エドウィンが恋人のライサンダー役と一緒に踊ってきましたが、デミトリアスとヘレナと4人での掛け合いは本

当に楽しいですね。テクニク的には、クラシックのステップが多くてかなり難しいのですが」

全文は  
こちらから



### ノイマイヤーの“魂”を糧に成長した実力派

レスリー・ヘイルマン

**ヘレナは格別の思い入れをもち徐々に発展させてきた役**

「ヘレナは踊っていてとても楽しい役ですが、なかなか一筋縄ではいかない役でもあります。スラップスティック・コメディになってはいけませんからね。ヘレナは、はじめは誰にも愛してもらえない、いわば「醜いアヒルの子」で、とても純粋。そして、喜

劇的な部分はあくまでも、恋の四角関係にある4人のやり取りのなかで生まれていくものであって、ただ面白おかしいことをして笑いをとるのとは違います。喜劇が間違った方向に行かないようにするのはとても難しいんです」

全文は  
こちらから



### 驚きと貴重な経験を糧に才能を伸ばす若手日本人ダンサー

石崎双葉、菅井円加

**ローザンヌ国際コンクールからハンブルク・バレエ団へ**

石崎双葉と菅井円加は、ハンブルク・バレエ団のクール・ド・バレエとして活躍する若手日本人ダンサー。二人とも、入団のきっかけはローザンヌ国際バレエコンクールだった。

「ノイマイヤーさんは、やはり他の振付家にはない独自のインスピレーションやスタイルを持っています。ダンサーを本当によく見ていて、異なる個性を持った踊り手一人ひとりにあった動きを振付け、シンプルな

ステップでもそれをより印象的に見せてしまう。毎回のリハーサルですごいなあと感心しています」(菅井)年に一、二度ある新作の創作過程は、参加した団員一人ひとりにとって忘れがたい経験となるという。「振付家が一から作品を創り始める現場にいるというのは、やはりとても大きいですね。『リリオム』が研修生だった時に出演した初めての創作作品だったので、今でも一つひとつの場面をよく覚えてます」(石崎)

全文は  
こちらから

